

(研究論文)

苦手意識を抱かせない器楽導入指導の在り方 ——離島小規模小学校における実践を通して——

西田 治 (初等教育講座)

1. はじめに

鍵盤ハーモニカ及びリコーダーに苦手意識を持たせないためにはどうすればよいのか。その最も効果的な手立ては、導入指導法の在り方にあると私は考えている。子どもが初めて楽器と出会う様子は、音の出るおもちゃと出会う様子に似ている。それがおもちゃならば、音を出すことを試行錯誤しながら楽しむことで事足りるが、それが楽器であり、操ることが必要となるものである場合には、その出会いの時期（導入期）におもちゃで遊ぶかのような感覚を大切にしながらも基礎的な奏法を身につけさせる必要がある。その楽器に出会い、先入観の薄い導入期に、楽器としての魅力を感じさせ、基礎的な奏法を身につけさせられるかが、苦手意識を持つか否かの重要な分かれ道となる。よって、本稿では、子どもに苦手意識を抱かせない器楽導入指導の在り方について実践と考察を行おうとするものである。

2. 苦手意識を抱かせない導入指導とは

苦手意識を抱かせない器楽導入指導のポイントとして以下3点を挙げる。

- ①楽器としての魅力を感じさせること
- ②基礎的な奏法と事項を理解させること
- ③何より楽しんで楽器と触れ合うこと

①については、先ずおもちゃではなく楽器であることを認識させ、それが音楽を作り出す魅力的な道具であることを感じさせることを意味している。これを感じさせるのに最も有効なのは、教師による範奏であろう。教師が導入指導の際に、子どもと同じ楽器を用いて範奏して聴かせることで、子どもたちは自分達の持っている楽器（鍵盤ハーモニカ、リコーダー）が素敵な音楽を作り出す道具だと感覚的に理解できるからである。また、範奏する楽曲は、難しいものでなくて良い。シンプルな曲でも美しい音と音楽の流れで演奏することで確実に

子どもたちは、熱心な聴衆となってくれる。そして、それらの楽器へ憧れをもって学習を始めることができるのだ。

②については、楽器と出会った初期にこそ、誤った癖がつかないように基礎的な奏法を身につけることが重要となることを意味している。リコーダーでいえば、左手を上にも構えるといったことやタンギング、鍵盤ハーモニカでいえば、正しい指使いや鍵盤の理解といった事項である。しかし、これらの基礎的な奏法と事項の理解があまりにも無味乾燥、教師からの一方的な押し付けであると、子どもたちは一気にその楽器への魅力を失ってしまう。よってその楽器への嫌悪感を抱かせないために重要となるのが、先ずはその楽器を演奏することが楽しいと感じられることである。それが③である。もちろん、ここでいう楽しさは、自分勝手に楽器に触れることを意味しているのではない。「わかった!」「できた!」「もっとやってみたい!」などの充実感を伴った楽しさのことである。

以上に上げた3点が、苦手意識を抱かせない器楽導入指導の必須事項と考える。そこでこれらのコンセプトをもとに器楽導入指導の授業をデザインし、実際に授業を行った。

3. 実践事例からの紹介

(1) 実践事例の概要

鍵盤ハーモニカ及びリコーダーそれぞれの導入指導案を立て、今回は、新上五島町立H小学校にて実践を行わせて頂いた。H小学校は、全校児童41名の小規模校である。当初、鍵盤ハーモニカは1年生のみを、リコーダーは3年生のみを対象とした導入指導を行う予定であったが、学校からの希望により、鍵盤ハーモニカについては1～6学年までの全学年に、リコーダーについては3～6年合同で実施することとなった。こういった複学年一緒に器楽導入指導を行えるのも小規模校ゆえの利点と捉え、今回は、初めてその楽器に取り組む学年にとっては「その楽器と仲良くなること」をねらいに、既に一年以上取り組んでいる学年には「その楽器と仲直りすること」をねらいに授業を進めることとした。以下、鍵盤ハーモニカおよびリコーダーそれぞれについて、授業の概要と子どもたちの感想を紹介する。

各授業の指導案は、資料として論文末に一括して掲載している。それら指導案は、授業を行う際に実際に使用し、参観して頂く先生方に配布したものである。指導案中に「具体の評価規準」が盛り込まれているが、これは私が評価を実際に行うためのものではなく、参観して頂く先生方の今後の参考にして頂くためと指導のねらいをより明確にするために設けたものである。

(2) リコーダー導入指導

リコーダー導入指導は、以下の流れで行った。

- (i) 教師による範奏と本時のめあてを掴む
- (ii) リコーダー演奏の基礎となる5つのポイントの理解

- (iii) 楽曲の演奏
- (iv) リコーダーの種類の理解（教師による範奏を含む）
- (v) ポイントのおさらいと感想の記入

先ほど示した「器楽導入指導のポイント①楽器としての魅力を感じさせること。」を押さえるために、授業の初めにはソプラノリコーダーによる「いつも何度でも」の範奏を行い、授業後半では、リコーダーの種類の紹介を含めてクライネソプラニーノによる「パズーのラッパ」、ソプラニーノによる「ムクドリ」、バスによる「もののけ姫」の範奏を行った。また、最後にお礼として2本のリコーダーによる「ぶんぶんぶん」の重奏も演奏した。範奏の曲数は、合計5曲である。後ほど紹介する子どもたちの感想にも、教師による演奏が印象に残っている様子が見える。いずれも難しい曲ではないが、教師が子どもの前で実際に演奏することで、子どもたちの印象に残り易く、憧れと目標を持ってリコーダーへの学習が始められるものと考えられる。

次に「器楽導入指導のポイント②基礎的な奏法と事項を理解させること。③何より楽しんで楽器と触れ合うこと。」の2点についてであるが、これを踏まえるために基礎的な演奏法と事項をゲーム感覚で学ぶ方法や、日常生活で経験しているイメージを用いるなど指導法の工夫を行った。以下、指導の流れに沿って指導方法と内容について概観したい。

(i) の範奏については前述のため割愛。(ii) が本時の中心をなす部分である。5つのポイントを漢字1文字ずつで表し、一つずつ理解をさせていった。そのポイントは以下の5つである。

- 耳…音色に気をつけて演奏を聴き分ける
- 息…演奏に適した息圧の理解
- 舌…タンギングの理解
- 指…左手の運指の理解
- 姿…演奏に適した姿勢の理解

「耳」の部分では、同じメロディーを「適した息で吹いた場合」と「乱暴な息で吹いた場合」の2回を演奏し、子どもたちにきれいな音色とはどういうものか、そして、きれいな音で演奏するためには、今のように耳をよく使わないといけない、ということについて理解させた。

「息」の部分では、きれいな音を出すための最大のポイントとして、息圧の理解をさせた。シャボン玉を吹くジェスチャーをした後にリコーダーですべての穴を開放の状態澄んだ音色が出るまで、繰り返し練習を行った。子どもたちがリコーダーを吹く場合、そのほとんどが息圧が大きすぎて割れて乱れた音になり易い。「どのような息だときれいな音が出るのか」を感覚的に理解させるために、ジェスチャーと解放でのロングトーンを行った。

「舌」の部分では、タンギングの理解を目指した。タンギングは、きちんと指導を行わなければ、身につかないままになってしまうことの多いテクニックであるが管楽器を演奏する

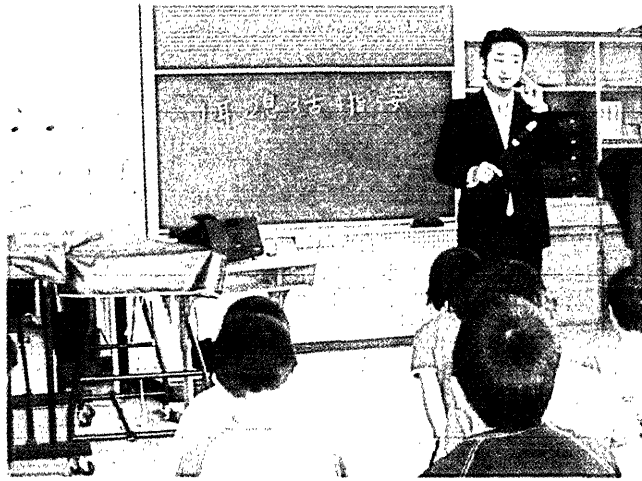
際には必須のテクニックであり、教え方次第ではかなり容易に身につくものであるため導入期に是非とも扱うべき指導事項である。今回の授業では、三国和子（1995）で紹介されていたアイデアを使用し〔三国和子、1995:pp.51-52〕、英語の「トゥー」を出発点とした学習を行った。基本的には教師とのコール&レスポンスを繰り返す中で習得していかせたが、子どもたちはゲーム感覚でタンギングを習得していった。

「指」については、左手を上にも構えさせることをまず第1とするため、右手でリコーダーの下部を持たせて指導を行った。右手と左手が逆手になって覚えてしまい高学年になってから持ち直すことは、子ども本人にとって辛いことであるため、徹底して左手が上であることをまず理解させなければならない。よく「左利きの子どもは左手が下になるのか」という質問を受けるが、そのような配慮は必要ない。特別の理由がない限り左手が上という原則を導入期にこそ身につけさせな

なければならない。具体的な運指については、シラソの三音のみ練習を行った。目をつぶった状態で抑えられるかなど、ゲーム感覚の指導を取り入れた。

「姿」については、北村俊彦（2005）で紹介されている姿勢を参考に授業中は常に意識するよう注意を促した。北村は、胸とリコーダーの間に風船をはさむなどのイメージを使って良い姿勢づくりの工夫を紹介している〔北村、2005:pp.17-19〕。子どもたちは運指を目で確かめようとし、リコーダーが必要以上に胸に近い位置にきやすいため、姿勢も導入期に常に意識させ、定着を図るべきであろう。

(iii) の部分は、楽曲の演奏である。楽器を持った以上は、基礎トレーニングだけでなく楽曲が吹



きれいな音でリコーダーを吹くためには耳をよく使うこと。きれいな音と汚い音が聞き分けられるか。



ボディデザインに合わせて、シとラの音を演奏中。楽譜がなくても「たこたこあがれ」を見事に演奏。

きたいものであるし、簡単な曲でも演奏できた喜びは今後の学習の原動力ともなるため導入指導でも必ず行いたい。しかし、難しい曲の演奏はできないため、選曲に工夫が必要となる。導入期の教材については、橋本龍雄（2000）、北村俊彦（2005）において、少ない音でも伴奏を工夫して、演奏した時に満足感が得られる楽曲が紹介されている。たとえば「シ」一音だけを使っての楽曲であれば、導入の1時間目でも演奏可能である。今回は、曲集『はじめてのソプラノ・リコーダー』に収められている「シの練習」を教材として使用した。この曲は、メロディーはシの音のみであるが、伴奏に豊かな和音とリズムが用いられているため、演奏を行った時の充実感が味わえる曲である。しかし、リズムは二分音符だったり四分音符だったりさまざまであるため、今回は教師がボディースインでリズムを伝えるという方法を取り、演奏させた。ほとんどの児童が1回目で演奏ができ、2回目では全員が上手に演奏することができた。さらにシとラの2音を使って、「たこたこあがれ」の演奏を行った。ここでもボディースインを用いることで、容易に演奏を行うことができ、児童も満足感を持っていた様子である。

そして、導入指導最後には、リコーダーの種類を理解として、様々なリコーダーの範奏を行った。この点については先ほど記述したため割愛する。以上、リコーダーに対して楽器としての興味・関心を高めるため、授業の前後に範奏を取り入れ、基礎的な奏法をマスターさせるためにゲーム感覚の指導法と楽曲選択を工夫した。これらにより、初めてリコーダーと出会った3年生も無理なく楽しく学習が行え、4~6年生からは、嫌いだったリコーダーが好きになったなどの肯定的な感想が多く見られた。以下、いくつか子どもたちの感想を紹介する。

《3年生感想》

西田先生とはじめてがくしゅうをし
てすごく楽しかったです。
西田先生がネムそしてくれました。

楽しかった。リコーダーの学習もするときは
すこくして、ほくもあはよいなれたらいいな
と思った。
また、いっしょにリコーダーの学習したい。

《4年生感想》

今日4日時間に西田先生とリコーダーを
おそあてて3年の時よりリコーダーの
ひきがたもよりよくなりました。
今日おそあてたことをこれからもいかに
いきたいと思います。

今日はリコーダーを3年生から6年生でしました。
先生は西田先生でした。リコーダーを見ずにシヤラヤリ
をさがしておたり、息をふく強さを練習しました。先生は
いろいろな曲をひいてくれたし小さいリコーダーや大き
なリコーダーを見せてくれました。さいごにはリコー
ダーを2つ、みんなにはもりながらひいてくれました。
今日はすごく楽しくリコーダーをひくことができました。

《5年生感想》

<p>小さい楽器が入る大きい楽器が見れたのがうれしかった。音楽大学の先生の説明もすごく面白かった。また、リコーダーの練習の時はちゅのポイントに気をつけてかまはりたいと思いました。</p>	<p style="text-align: center;">H小</p> <p>長崎大学音楽部で練習した。西田先生は、リコーダーがすごく好きでした。かこよからたども、西田先生が「何度でも何度でも」という曲をながしてもらいました。ばば、ききほれました。</p>
---	--

《6年生感想》

<p>今日のリコーダーをやった、とても楽しかったです。私は、リコーダーにかかいて音楽の時はいつもリコーダーがあてていたけど、西田先生に今日教えてもらってリコーダーをやるのが楽しいことだと気づきました。リコーダーの楽しさを教えて下さってありがとうございます。これからリコーダーが楽しくなれるようにしたいです。</p>	<p>リコーダーの学習で、なつて知っている事が多かったです。深く考えていなかったから、今日はビックリしました。私はクセで、みんなと違うので、穴もふいて、みんなにおかせようとしたら、むずかしくて、今日はじめて、とてもやりやすかったです。今日は楽しかったです。</p>
---	--

(3) 鍵盤ハーモニカ導入指導

鍵盤ハーモニカ導入指導は、全学年への指導となったため2コマ（1～3学年、4～6学年）に分けて指導を行った。各学年の学習のめあては次のように設定した。

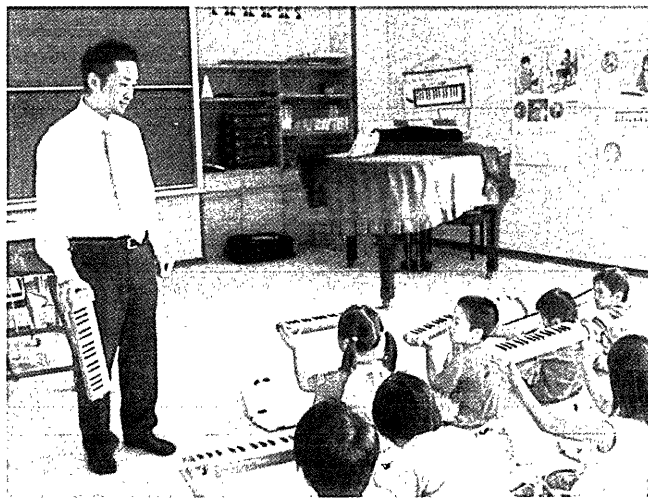
- 1年生は、音遊びを通して鍵盤ハーモニカの学習への関心を高め、鍵盤の配列について理解させると共に器楽学習をする際の約束事について理解させる。2, 3年生は鍵盤ハーモニカの基礎について再確認し基礎の定着を図る。
- 4～6年生は、鍵盤ハーモニカの基礎について再確認し基礎の定着を図ること。拍の流れに乗って鍵盤ハーモニカを合奏できるようにする。

前述した「器楽導入指導のポイント①楽器としての魅力を感じさせること」を踏まえるため、いずれのグループにおいても範奏を授業の始めと終わりに行った。授業の始まりはアンダーソン作曲「トランペット吹きの休日」を、終わりには「いつも何度でも」を範奏した。後ほど紹介する子どもたちの感想からも読み取れるように、やはり教師による範奏は子どもたちの印象に残り易く、またその楽器への興味・関心を高めることが分かる。

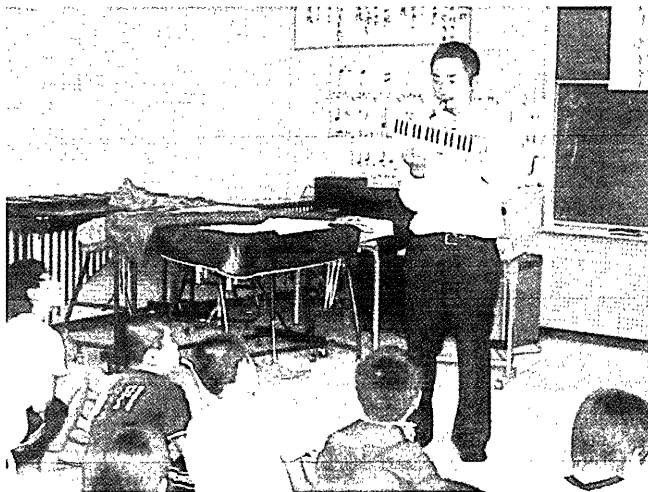
次に「器楽導入指導のポイント②基礎的な奏法と事項を理解させること③何より楽しんで楽器と触れ合うこと」を踏まえるため、リコーダー学習と同様にゲーム性を取り入れたり、ごっこ遊びを取り入れたり、ボディパーカッションを取り入れたりしながら子どもたちが楽しみながら鍵盤ハーモニカの基礎を学べる指導法の工夫を行った。1～3学年の導入指導の主な流れは、次の5点である。

- (i) 範奏の鑑賞
- (ii) 約束事の理解…音をやめるサインを覚える
- (iii) 音遊びを通して黒鍵の概念を理解する
- (iv) ドの位置を見つける…「どんぐりさんのおうち」を使って
- (v) 範奏の鑑賞と感想の記入

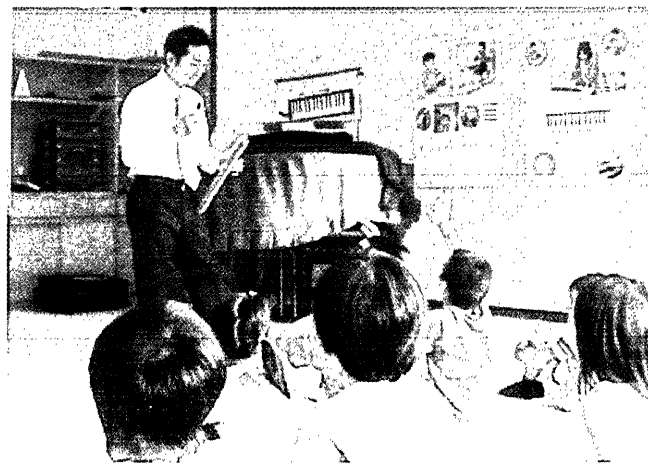
(ii) については、「先生が手を2回叩いたら、両手は頭の上」というように、サインがあったら強制的に鍵盤から手が離れるような方法を約束させる。鍵盤ハーモニカは音が大きいため「音をやめる合図」をしっかりと事前に指導しないと、学習そのものが成立せず騒然とした状態に陥り易い。(iii) については、鍵盤というものが白と黒の模様でできており、黒い鍵盤は白い鍵盤よりも高くなっている、ということからスタートする。また鍵盤の法則性を理解させるためには、黒鍵の概念について理解させなければならない。本授業では、「二つおやま」を使ってクラクション遊びを、「三つのおやま」を使って救急車のサイレンの模倣をさせることで黒鍵の理解をさせた。また、「二つのおやま」を使う際には、バスの運転手さんになってのごっこ遊びを取り入れたり（[八木正一ら、2001: pp.110-111]を参考）、「3つのおやま」を使う際には、「はしれきゅうきゅうしゃ」の楽曲にのせてサイレンを鳴らさせたりすることで、子どもたちが楽しく取り組みながら黒鍵の理解ができるよう配慮を行った。(iv) では、鍵盤の中からドの位置を見つけるため教育芸術社の



白と黒の模様の理解と、黒い鍵盤が白い鍵盤よりも高くなっていることを理解させる。



ものまね遊びの様子。二つのお山を同時に鳴らすと何に聞こえるかな…答えは車のクラクション。



教科書教材である「どんぐりさんのおうち」を用いた。歌詞が「秘密の地図」になっていることを伝え、自分達でどんぐりさんのおうち（ドの位置）を探してみる活動は、子どもにとってワクワクする活動であり、自分達で見つけたドの位置であるため定着も早い。

次に4～6学年の導入指導は、以下のような流れで行った。

- (i) 音楽ゲーム…拍を意識するための手拍子回しと簡単なボディパーカッション
- (ii) 範奏の鑑賞
- (iii) 鍵盤についての復習
- (iv) 鍵盤ハーモニカによる合奏
- (v) 範奏の鑑賞と感想の記入

中高学年に導入指導とはいかがなものか、と思われるかもしれないが、器楽の活動は一般的に学年が上がるにつれ苦手な子どもと得意な子どもにはっきりと分かれる傾向がある。そして、苦手な子どもにとっては器楽の活動が苦痛になっている場合さえある。よって、この時期に鍵盤ハーモニカの導入指導を通して、鍵盤ハーモニカと仲直りすること、そしてそれによって鍵盤への理解をはかることは、その後の器楽活動の礎を築くという意味でも価値のあることだと考えられる。活動内容の(ii)(iii)(v)については、先ほど紹介したものと類似しているため割愛する。ただ低学年で行ったごっこ遊びは、中高学年には不適と考えたため他の活動にすり替えている。4～6年生には、鍵盤ハーモニカの基礎を復習した後、合奏をメインとして行った。ここでは選曲に配慮し、簡単であり読譜を必要としないもの、且つ演奏した後に満足感のあるものという観点から「もりのくまさん」の副次的旋律を主旋律に合わせて演奏する活動を行った。楽譜は、曲集『あわせよう！楽しいたど～身近な楽器を使って～』に収められているものを使用した。楽譜は用いずに、リコーダー導入指導の時に用いたボディサインを使用しての合奏を行ったが、数回繰り返すうちにほぼ全員が上手に演奏することができていた。また、合奏という活動の性質上、みんなで一つの音楽を作っているという満足感も得られた様子である。「もりのくまさん」は簡単な合奏だが、拍子や拍を共有していないと難しい活動であるため、授業の導入段階で音楽ゲームを用いて拍子感と拍の共有について理解させておいた。子どもたち及び論文末で紹介する先生方の感想からも中高学年における鍵盤ハーモニカの導入指導は、基礎の再確認、苦手意識の払拭という意味で大きな役割を果たすことが確認された。

以下、1～6学年の子どもたちの感想を抜粋して紹介する。

《1年生感想》

さいごのけんぱんはおもにかが
すごかったです。いろいろなえんごを
にすごかったです。
ありがとうございました。

ちよっとむすかしが
たけどたのしかったで
す。さいごのきくが
すごかったです。また
いっしょにしたいです。

《2年生感想》

今日はけんぱんハーモニカのことをいろいろ教えてくれありがとうございました。やたしはしらなにもいろいろ教えてもらったからいろいろことがわかりました。西田先生のえんどうはびくの音が早かったからまだたでまさいのえんどうはすこいなと思ひました。

きょうにし田先生に音がくのきょうぎょうしゅうけんぱんのひびきをたをおしえてもらってうれしかった。さいごのものをけひめをひいてわたしはすごくおもしろいと思ひました。一、二、三年で音がくをしたのでしたです。つぎの音がくはもっとよくしたいです。

《3年生感想》

今日けんぱんハーモニカの学習をしてよくけんぱんハーモニカのことわかりました。バスや、きゅうきゅう車の音を鳴らしたりしてすごく楽しくべん強できました。一年生でしたきよくと同じきよくたけどふくしゅうにな、しよかたです。また来たときはピアノやハーモニカを教えてください。今日はほんとうありがとうございました。

西田先生へ、きえもすごく楽しかった。たでま今日も楽しかったです。音楽のリコーダーやけんぱんハーモニカや歌が楽しのに音楽がすきにたまりました。ほんとうにありがとうございました。イ本にきをつけてください。

《4年生感想》

今日はけんぱんハーモニカをいろいろいろいろなことが分かって、リコーダーと同じで息をふくときにはトウ、トウと息をしないといけないということが初めてわかりました。今日習ったのは全部知、てい、思、て、いたけど、知らないこともたくさんあって勉強になりました。とても楽しかったです。リコーダーを教えてください。た時に先生がえんどうしていた千と千ひろの神がしの曲をけんぱんハーモニカでひいて、すごくいいなと思ひました。今日は本当にありがとうございました。

今日はけんぱんハーモニカを教えてくださいました。私はピアノをひいているけれど、ピアノとけんぱんハーモニカはちがうからあまり上手ではないけれど、今日はとても分かりやすく、ひきやすく教えてもらったのできらいなひくことができました。西田先生はとてもけんぱんハーモニカやリコーダーをひくのがうまくて私もピアノが今よりも、うまくなりたいと思ひます。今日はとても楽しくけんぱんハーモニカをひくことができてよかったです。

《5年生感想》

西田先生と音育カギをうけ、
たてま、それにぼくは、
いすかして、たのしくて、
こ木が、もさてくたさい。

ぼくは、けんは、ハ-モニカを
れし、か、たて、ぼくは、けんは、
ハ-モニカを、西田先生は、
ハ-モニカを、けんは、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、

《6年生感想》

けんは、ハ-モニカを、
おとて、おんがくになつた、
たしたのしかたです。
それと、西田先生が、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、

今日は、けんは、
おしえて、くれ、
ありがとう、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、
けんは、ハ-モニカを、

4. 考察

以上、指導案を立て実施した授業の概要と子どもたちの感想を紹介してきた。苦手意識を抱かせない器楽導入指導のポイントとして、3点を挙げて実施してきたわけであるが、子どもたちの感想からそれらの方向性に間違いがなかったことが証明された。もちろん本研究を端緒として今後も実証的な研究を進めていく必要性は感じている。器楽導入指導は、その楽器に初めて触れる子どもにとっては誤った癖をつけずに基礎を定着させる重要な時期であり、苦手意識を作らないという意味でも大切な時期である。また、既に触れている子どもにとっては、基礎の確認と苦手意識の払拭という意味合いを持つことが示唆された。器楽の学習は、ともすると訓練的になりがちである。もちろん訓練的な要素が必要な時期もあるが、導入指導においては、その楽器の魅力に触れながら楽しく基礎を身につけていくことが望まれるだろう。

また、これら一連の導入指導を終えた後にH小学校に伺った際、朝、クラスから鍵盤ハーモニカやリコーダーの練習する音が聞こえるようになった、というお話を伺った。また、鍵盤ハーモニカとリコーダーが嫌いで音楽室に入ることを拒否していた子どもが私への感想に

来、楽しいはずの音楽活動であるが、ともすると苦手意識が大きくなり、音楽活動そのものが苦痛となる場合がある。好奇心を持って音楽活動を子どもたちが行えるような指導方法をこれからも模索していきたいと考えている。

今後は、単式学級、1学年ずつの実践も継続して行い、器楽導入指導の重要性と、その有効な手立て、および教材開発について研究を進めていきたい。

【参考文献】

- 北村俊彦（2005）『小さな指に優しい リコーダー指導 小学3～6年生』小学館
- 橋本龍雄（2000）「21世紀の小学校におけるリコーダー指導のあり方についての提案——導入期における教材開発を通して——」『福井大学教育地域科学部紀要 第VI部 芸術・体育学（音楽編）第33号』pp. 1-17
- 三国和子（1995）『やさしいリコーダー指導のコツと練習曲』学事出版
- 八木正一・池田康子（2001）『「音楽活動の基礎」の授業50のネタ』学事出版
- 『はじめてのソプラノリコーダー』ヤマハ株式会社
- 『あわせよう！楽しいうたと～身近な楽器を使って～』ヤマハ株式会社

《リコーダー指導案 3～6年合同》

実施日等：2008年4月30日 11:30-12:15 新上五島町立H小学校（3-6年生合同）授業者：西田治
 本時のねらい：リコーダーへの関心を高め、奏法の基礎を概括的に知り理解する。
 学習の展開：以下の表のとおり。

○学習内容・学習活動	○教師のかかわり ★具体的評価規準など
○鑑賞の鑑賞 《いつも何度でも》 ○本時の学習のめあてをつかむ。 リコーダー奏法の基礎を知る。	○伴奏に合わせて教師が演奏を行う。 ○今回の学習のめあてを理解させる。 5つのポイントを各々漢字一文字で示す。 [耳 息 舌 指 姿]
○5つのポイントの理解。 ①耳…音色に気をつけて演奏を聞き分ける	①きれいな音ときたない音の二通りの演奏をし、「どちらがきれいな音か」、「どうやったらきれいな音が出るか」を考えさせる。★◎音色の違いを感じ取ろうとしている（表情観察、発言の聞き取り）。
②息…シャボン玉の息（息圧の理解）	②きれいな音を出すポイントが息圧にあることに気付かせ、シャボン玉を吹くときの息圧でリコーダーを演奏するよう理解させる。
③舌…トゥの発音（タンギングの理解）	③英語の「2」の発音から舌の動きに気付かせ、タンギングを理解させる。
④指…0 1 2 3番 左手の運指の理解	④左手が上になるように構えさせるため、右手はリコーダーの下部を持たせて左手の運指を理解させる。
⑤姿…演奏に適した姿勢	⑤胸とリコーダーの間に風船があるイメージで構えさせる。★◎5つのポイントを理解しようとしている。（演奏聴取、態度観察）
○楽曲の演奏 《シの練習》 《たこたこあがれ》	○5つのポイントを踏まえて簡単な楽曲の演奏を行う。両曲共に教師が範奏を行いイメージをつかませる。 ○両曲とも楽譜は用いず教師のボディサインに合わせて演奏させる。★◎5つのポイントを意識して演奏に生かそうとしている。（演奏聴取、態度観察）
○リコーダーの種類理解 リコーダーにはソプラノだけでなく多様な種類があることを知り、リコーダーへの関心を高める。	○ソプラニーノ、クライネソプラニーノ、バスの三種類を演奏しながら紹介し、リコーダーの種類を幅広く理解させる。
○本時のまとめ 学習カードへ5つのポイントと本時の感想を記入する。	○5つのポイントを振り返る。リコーダー2本で《ぶぶんぶん》を演奏し、今後のリコーダー学習への意欲づけをする。

◎次回以降、「学習カード」を用いて5つのポイントを定着させていくことが望まれる。

《参観して頂いた先生方の感想》

今日はありがとうございました。
 リコーダーの導入とウツレ成、高学年にもっと新鮮で
 好（ために好）まけて。
 「耳息舌指姿」この5つのポイント頭に入れて、今後
 指導にあたりたいと思います。
 先生、よくお願いします。

少ない音とシブスターを用いることも逆に演奏の楽しさを感じたり
 リコーダーへの関心も高まるように感じる方法がとてもよかったと感じました。

《鍵盤ハーモニカ指導案 1～3年生合同》

実施日等：2008年6月26日 10：40～11：25 新上五島町立H小学校（1～3年生合同）授業者：西田治
 本時のねらい：1年生は、音遊びを通して鍵盤ハーモニカの学習への関心を高め、鍵盤の配列について理解させると共に器楽学習をする際の約束事について理解させる。2，3年生は鍵盤ハーモニカの基礎について再確認し基礎の定着を図る。
 学習の展開：以下の表のとおり。事前に《こぶためきつねこ》で音遊びをしてリラックスさせる。

○学習内容・学習活動	○教師のかかわり ★具体的評価規準など
○範奏の鑑賞 《トランペット吹きの休日》	○教師が演奏を行う。
○本時の学習のめあてをつかむ。 「鍵盤ハーモニカと仲良くなろう」	○今回の学習のめあてを理解させる。 鍵盤遊びを通して鍵盤ハーモニカの奏法の基礎を体験的に理解させるとともに、鍵盤ハーモニカを吹く上での約束事理解させる。
○約束事の理解 音をやめるサインを覚える。	○器楽学習で必須の事項である「合図があったら音を出すのを止めて話を聞く」ということについて理解させる。
○「鍵盤」の理解	○鍵盤の構造を理解させる。黒と白の模様がどのような配列になっているか、観察を通して気づかせる。
○ホースをつけ方	○「こんにちは」と言いながら回して入れると外れにくくなる。
○音遊び ①二つのお山を使ってクラクション遊び ②三つのお山を使っての救急車のサイレン	○音遊びを通して鍵盤の位置について理解させる。 ①は、バスの運転手さんになっての音遊び。 ②は、「走れ！救急車」の曲に合わせた音遊び。 ★◎教師のボディサインに合わせて、演奏しようとしている（態度観察、演奏聴取）。
○ドの位置を見つける 《どんぐりさんのおうち》を学習	○鍵盤の配列を理解し、ドの位置を自分で見つけられるようにする。★◎拍の流れによって歌ったり演奏したりしようとしている（態度観察、演奏聴取）。
○片づけ方を覚える	○つば抜きを含めた片づけ方について理解する。
○本時のまとめ 範奏の鑑賞 《いつも何度でも》 感想の記入	○本時の学習を振り返る。教師の演奏を聴かせ、今後の鍵盤ハーモニカ学習への意欲づけをする。

◎次回以降、音遊びなどを通して鍵盤の理解を定着させていくことが望まれる。
 また合せて導入期にタンギングの指導を行うことが望ましい。

《参観して頂いた先生方の感想》

鍵盤ハーモニカの授業 見聞が 新鮮で 良かったです。
 子ども達の楽しげな表情と 見ているだけで 嬉しく 感じました。(先生)を
 勉強させたいと思います。
 子ども達の成長に 喜びを感じました。

《鍵盤ハーモニカ指導案 4～6年生合同》

実施日等：2008年6月26日 11:30-12:15 新上五島町立H小学校（4～6年生合同） 授業者：西田治
 本時のねらい：鍵盤ハーモニカの基礎について再確認し基礎の定着を図る。拍の流れに乗って鍵盤ハーモニカを合奏できるようにする。

学習の展開：以下の表のとおり。事前に既習曲《スマイルアゲイン》を歌って緊張をほぐす。

○学習内容・学習活動	○教師のかかわり ★ 具体の評価規準など
○本時の学習のめあてをつかむ。 「鍵盤ハーモニカと仲直りしよう」	○本時の学習のめあてを理解させる。 鍵盤ハーモニカの基礎について再確認し基礎事項の確認をさせる。拍の流れに乗って鍵盤ハーモニカを合奏できるようにする。
○音楽ゲーム 手拍子回しゲーム 拍を意識した手拍子回し（3拍子、4拍子） コール&レスポンス及び反復によるリズム合奏	○拍に乗って演奏するための学習。音楽ゲームを通して、全員で同じテンポを感じ、そのテンポの拍に乗って演奏できるようにする。
○範奏の鑑賞 《トランペット吹きの休日》	○鍵盤ハーモニカの範奏を教師が行うことで、鍵盤ハーモニカ学習への関心を高める。
○約束事の理解 音をやめるサインを覚える。	○器楽学習で必須の事項である「合図があったら音を出すのを止めて話を聞く」ということについて理解させる。
○「鍵盤」の理解	○鍵盤の構造を理解させる。黒と白の模様がどのような配列になっているか、観察を通して気づかせる。
○音遊び ①二つのお山を使ってクラクション遊び ②三つのお山を使っての救急車のサイレン	○音遊びを通して鍵盤の位置について理解させる。 ①は、《ばすばすはしる》の音遊び。 ②は、《走れ！救急車》の曲に合わせた音遊び。 ★◎教師のボディサインに合わせて、演奏しようとしている（態度観察、演奏聴取）。
○ドの位置を見つける 《どんぐりさんのおうち》を復習	○鍵盤の配列を理解し、ドの位置を自分で見つけられるようにする。
○鍵盤ハーモニカの合奏 《もりのくまさん》の副次的旋律を3パートに分かれて演奏する。	○副次的旋律を練習し、伴奏に乗って演奏できるようにする。★◎拍の流れに乗って合奏しようとしている（態度観察、演奏聴取）。
○片づけ方を覚える	○つば抜きを含めた片づけ方について理解する。
○本時のまとめ 範奏の鑑賞 《いつも何度でも》 感想の記入	○本時の学習を振り返る。教師の演奏を聴かせ、今後の鍵盤ハーモニカ学習への意欲づけをする。

《参観して頂いた先生方の感想》

とても勉強になりました。
 今日のような導入をすると、子どもたちもけんぱんが好きになると思いました。
 「てきなーい」という子が一人もいない とてもわかりやすい授業だったと思います。
 私もやるぞです。ありがとうございました。
 先生の演奏もステキでした。